

# 日本女子大学

T 112-8681  
 東京都文京区目白2-8-1  
 広報課  
 TEL 03-6860-1363  
<https://univ.jwu.ac.jp/univ/>

日本女子大学は、日本初の女子高等教育機関として創立し、本年120周年を迎えました。私立女子大学唯一の理学部を有し、文理融合の教育環境を持つ女子総合大学です。創立者である成瀬仁蔵の教育理念を集約した「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」の三綱領は明治から令和の現在にまで受け継がれ、各界にリーダーを輩出してきました。また卒業生以外にも門戸を開くリカレント教育など、誰もが生涯を通じて学び、成長し続ける社会を創るための機会を提供しています。

そして、成瀬の教育方針である「自学自動」、すなわち自ら学び、自ら行動する学習姿勢を育む環境で、多様で非連続に変化する社会において、新しい明日を共に創る人材を育てています。



篠原聡子学長

## 創立120周年 4学部15学科を目白キャンパスに統合 新しい明日を共に創る



百二十年館(手前)

**総合力を生かした新しい学修の場に発展**

日本女子大学は、女性が主体性と自立性を確立する場として優れた教育環境を有しています。

2021年に創立120周年を迎え、川崎市の西生田にあったキャンパスは、創立の地目白に統合されました。卒業生であり、世界的な建築家の妹島和世氏によるグラウンドデザインのもと、新しくなった目白キャンパスに4学部15学科と大学院のすべてが集結し、女子の総合大学として文理融合の多様な教育を推進しています。今年4月には、ラーニング・commonsを備えた教室・研究室棟である百二十年館が開館しまし

ました。また、教育改革の一環として、2022年度より理学部2学科では数物科学科が数物情報科学科、物質生物科学科が化学生命科学科に名称変更を予定しています(本計画は届出中であり、内容は変更となる場合があります)。この新しい環境の中で、「新しい明日を共に創る」をテーマとして、分野や国を超えた連携をはかり、その連携から新しい価値を創造する学びに力を入れています。2023年に向けて、脱教室、脱キャンパス型の新しい学びを主軸にした国際文化学部(仮称)の新設を構想しています。また昨年、社会連携教育センターを立ちあげ、多くの地域連携や企業との連携プロジェクトが開始しています。本年度は、さらに地方自治体などの連携も含めて、多角的にプロジェクトを展開しています。

また、卒業論文・卒業制作は全学科必修です。

### 幅広い教養を身につける 質の高い教育と研究力

日本女子大学は、建学以来の伝統ある家政学部、多くの文学者やジャーナリストを輩出した文学部、全国に先駆けて開設した人間社会学部、私立女子大学では唯一の理学部の4学部15学科を擁する女性のための総合大学です。各学部とも少人数の演習を重視した質の高い授業が特色で、卒業論文・卒業制作は全学科必修です。

また、入学時から教員によるアドバイザー制度を取り入れ、少人数による教育を実施するなど細やかに学生を支援しています。

一方、教員の研究力にも定評があります。文部科学省「令和2年度科学研究費助成事業の配分」において、採択件数は私立女子大学では2位、新規採択率は私立女子大学で2位、研究者に占める女性比率は、新規応



### 新しい目白キャンパスへ 百二十年館が開館

創立120周年事業の象徴となるのが、今年完成した教室・研究室棟である百二十年館(写真左)です。デザインを手がけたのは、本学卒業生で世界的な建築家の妹島和世氏。館内は2019年に開館した図書館(写真右上)に

続き、ラーニング・commonsを備えた明るい空間となっています。また新学生棟の杏彩館(写真右下)も合わせて、成瀬の教育方針である「自学自動」すなわち自ら学び、自ら行動する学習姿勢を育む環境が整いました。

### 実践的プログラムを充実させ 積極的な国際交流を実現

春や夏の長期休暇を生かした大学公認海外短期研修では、語学研修や専門領域を学ぶ研修、異文化体験を目的とした研修などがあります。

また、世界の多門大学と交流協定を締結し、本学学生の派遣と協定大学生的学习の受け入れ(2021年度は

募集数が50件以上の研究機関で、302機関中6位(61・9%)にランクインしています。

このほか、学ぶ意欲を支援するため、多くの賞や奨学金を設けています。人物・学業ともに優秀な学生を表彰する「日本女子大学学業成績優秀賞・研究奨励賞」(授業料後期分免除)や創立者を記念した「成瀬仁蔵先生記念賞」(卒業時に記念品を授与)、経済支援を目的とした、「日本女子大学校楓奨学金」や「日本女子大学泉会学業支援給付奨学金」などがあります。

### 女性の一生を見据えた きめ細かなキャリアサポート

創立当初から「実践倫理」という人格形成に資する授業を行ってきた日本女子大学では、「キャリア」を「生き方」としてとらえるキャリア教育を実施しています。社会への貢献や人生を豊かにするためのキャリアを主体的にデザインする力を養う「JWUキャリア科目」と「JWU社会連携科目」を必修化しました。一人ひとりの「自己発見」と「自己実現」をサポートしています。

これに加え、各種ガイダンスや個別支援など実践的な就職支援プログラムも展開。2021年3月卒業生の就職率は98・4%と極めて高い実績を上げています。内定先企業に対する学生の満足度も96・6%と高く、「就職に強い日本女子大学」の定評を確かなものとしています。日本女子大学の同窓会組織、桜楓会も積極的に在学中や卒業生を支援しています。

このほか、「生涯学習センター」では教養講座、外国語講座、資格取得講座などキャリアアップや人生をより豊かにする科目を用意し、卒業

に加えて、「教養を深める科目」で広い視野も養っています。その代表的な科目が「教養特別講義」です。「自己人生を切り開く」とともに社会に貢献できる人材」の養成を目指し1966年に始まったもので、学園の理念や精神を学び、各界で活躍する講師の講演で思考を深めます。

学際的に提供するカリキュラムは約3000科目に上り、学部を横断的に学べる自由選択科目も充実。他学部や他学科の科目を履修することで幅広い教養を身につけます。また、変化の激しい現代にあって、自分らしく活躍でき、幅広い思考力、表現力、実践力を身につけるために、「キャリア」「社会連携」「AI・データサイエンス・ICT」という3つの基盤的教育認定プログラムが今年度から開始しました。さらに、学習院大学・学習院女子大学・立教大学・早稲田大学との単位互換制度「Campus」(2021年度は運用中止)や、同志社女子大学との学生交流協定などダイナミックな学びの環境を整備しています。

**学部・学科**

- 家政学部
  - 児童学科/食物学科/住居学科/被服学科/家政経済学科
- 文学部
  - 日本文学科/英文学科/史学科
- 人間社会学部
  - 現代社会学科/社会福祉学科/教育学科/心理学科/文化学科
- 理学部
  - 数物情報科学科※/化学生命科学科※
  - ※2022年4月、数物科学科、物質生物科学科より名称変更予定(届出中)
  - (本計画は届出中であり、内容は変更となる場合があります)

**入試TOPICS**  
**2022年度入試の変更点**

■総合型選抜を全学科で実施します。  
 事前課題・小論文・口述試験などを通して、主体性や表現力などの総合的な力で合格を判定します。

詳細は、大学HP「2022年度入学試験について」をご覧ください。  
<https://univ.jwu.ac.jp/univ/admission/exam/overview.html>

後も学べる場を提供しています。

卒業生以外にも門戸を開く「リカレント教育課程」では、修了者にはレベルの高い再就職先を紹介するなど、女性が生涯を通じて学び続けるための充実した環境を提供しています。

少人数による授業と、女子の教育に特化した空間は、性別役割にとらわれない自由な議論や行動が保証され、そこで過ごす時間は、その後の人生の大きな宝物になります。

既存の概念に挑み、新しい明日を共に創る学生を、さまざまな形で応援しています。

**(1) 成瀬仁蔵**  
 1858(安政5)年、現在の山口市で武士の家に生まれる。教育者として、女子の中等教育機関の校長として尽くすが、1890(明治23)年の渡米を転機に、日本で女子のための高等教育機関をつくることを決意。1896(明治29)年に「女子教育」を上梓、女子大学設立運動を起こして、1901(明治34)年に日本女子大学校を創設。女子高等教育への道を開いた。1919(大正8)年逝去。

**(2) ラーニング・commons**  
 少人数による授業をはじめ、各種ミニ講座や、学部生・大学院生が担当するラーニング・サポーターによる学修相談を行い、学生たちはコミュニケーションを深めながら自発的に学ぶ。図書館、新しい教室・研究室棟の百二十年館に設置。

**(3) 教養特別講義**  
 「教養特別講義」は必修科目。成瀬が創立以来続けた講義「実践倫理」が原点。日本女子大学の歴史と伝統を知り、本学で学ぶ意義の理解と自己形成につなげる。夏には軽井沢にある三泉寮で1泊2日のセミナーが行われる(2021年度は取り止め)。また、社会の第一線で活躍する講師陣を学内外から招聘し、講演やディスカッションを行う。

**(4) 桜楓会**  
 正式名称は「一般社団法人日本女子大学教育文化振興桜楓会」。卒業生によって組織される団体で1904(明治37)年に創設。目白キャンパスにある本部を拠点に国内外に約150の支部があり、在学生のための奨学助成、留学生との交流・支援などを行っている。

卒業生の活躍はめざましく、女性で初めて帝国大学(東北大学)で学んだ農学博士・丹下ウメや、女性解放・世界平和運動に偉大な足跡を残した平塚らいてうも卒業生。建築界のノーベル賞ともいわれる米プリツカー賞を受賞した建築家の妹島和世氏や、作家の平岩弓枝氏、脚本家の大石静氏、漫画家の高橋留美子氏、スリール株式会社代表取締役社長の堀江敦子氏らの活躍は社会的にも高く評価されている。